

て逐一評論を加えた上で、裸子植物は一元ならんと結んでいる。(前川文夫)

○久内氏のマダラホトトギスについて (武田久吉) Hisayoshi TAKEDA: On *Tricyrtis hirta* Hook. forma *atropurpurea* Hisauchi.

本誌 41: 10 に発表されたホトトギスの 1 品は、突然変異によって生じたものであろう。それが習志野の一角に在る二宮神社の裏山に、多数生えているらしいが、普通品と混生しているのやら、そういうものだけが生じているのやら、簡単な記事から推定するのは難い。私の庭にも左様なものがあって、古くは戦前に、沢山ある普通品のあるものが、突然そんな花をつけたが、他の種類との天然交配とも思えず、只珍らしい品種として扱っていた。それが戦事中いつとはなしに失滅してしまって、惜しい事をしたと話していたところ、戦後またも自然に現れて、今では年年その様な花をつける。花によつてこの黒紫斑の程度は区々で、中には黒紫斑の間に、普通の淡紫点を交えるものもあり、柱頭は概して普通品のと大差ないのが通例のようで、その程度は一定していないようである。これで見ると、久内氏のは、極端な黒紫斑の性質が現われて居るものであろう。今年もホトトギスの季節には、沢山のこの品種について、黒紫斑の程度を観察して見よう、楽しみにしている。

○オタクミツツジ (山崎 敬) Takasi YAMAZAKI: A new form of *Rhododendron indicum*.

寺崎留吉氏の続日本植物園図譜 2642 図 (1938) にヤクシマサツキ、屋久島より移植栽培として、荒川一郎氏の栽培品にもとづいて画かれた図がある。将来不明の植物となってしまう恐れがあるので、わかっていることを記録しておく。現在園芸品にオタクミツツジとよんで、ごく一部の人に栽培されているものがあり、寺崎氏の図はこれと一致



*Rhododendron indicum* f. *otakumi* ×2/3.

する。葉は暗緑色で細くて短く、花弁はこい朱赤色で、基部まで 5 片にさけ、開花後じきに各片ばらばらに落ちる。おしべは 5 本あるが発育不良で、花糸は短くてねじれており、めしべも発育不全で結実しない。サツキの一品であることは明らかであるが、いちじるしく奇形の植物である。これがどうしてオタクミツツジとかヤクシマサツキとかいわれるかというと、次のようなわがある。荒川一郎氏は現在東京山草会会長と